

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【退職教員を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 新宿文化・国際交流財団

1 事業の趣旨・目的

新宿区では多文化共生社会の実現を推進している中、地域社会においては、外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育の必要性が顕在化している。

外国にルーツをもつ子どもたちの中には、親の都合で来日して、母語や母国の文化とは異なる日本での新たな生活環境に適應するのに苦労するケースも多い。学校生活においても、日本語が十分理解できないために、教科学習についていけない、友だちができない、自己表現ができないといった子どももいる。また、母国では優秀な成績をおさめていたのに、来日後の学校生活では日本語がわからないために成績もさがり、学習意欲を失う子どももいる。このような状況は、将来的には進学や就職、生活にも大きく影響する。日本の地域社会の一員であるこれらの子どもたちを社会からドロップアウトさせないしくみづくりを急がなければならない。

そのための有効な一つの方法として考えられることは、退職教員による日本語指導である。退職教員の中には、学校で子どもたちが悩み、苦しんでいる様子を目の当たりにしてきた人もいるため、学校での生活面なども含めて子どもたちをフォローすることができる。また、教員としての経験に加えて日本語指導者としての知識と能力を身に付けることで、幅広い支援を期待することができる。

退職教員を対象とした日本語指導者養成講座を実施し、その後に子どもたちへの支援ができるよう、しくみづくりをしていくことを目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
1月15日	しんじゅく 多文化共 生プラザ	4名	「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」の事業内容の検討	・委員自己紹介 ・事業の実施目的の確認 ・予算の確認 ・学習内容・方法の検討 ・意見交換

3月14日	教育センター	4名	「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」の実績成果のとりまとめ、および課題・改善点について	<ul style="list-style-type: none"> ・委員からひとこと ・事業報告 ・収支報告 ・意見交換 ・実施成果のとりまとめ、評価 ・今後について ・事務連絡
-------	--------	----	---	--

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

外国につながるのある子どもたちに対する日本語指導者養成講座(退職教員を対象とした日本語指導者養成)

(2) 養成講座の目標

来日児童生徒の学校への適応を目指し、日本語及び教科指導を支援できる人材を養成する。
来日児童生徒の状況を知る。

(3) 受講者の総数 14人

(4) 開催時間数(回数) 17時間 (4回)

実習 11日間のうち、各自1, 2日(5時間)以上

(5) 参加対象者の要件

退職教員で、外国にルーツをもつ子どもたちのための日本語指導のボランティア活動に意欲を有する者。

(6) 受講者の募集方法

募集チラシを作成し、区内各施設、日本語関係団体、教育委員会に配布
財団ホームページ掲載
新宿区広報、財団広報で周知
メーリングリストで日本語関係者に情報提供

(7) 研修会場

新宿区立しんじゅく多文化共生プラザ
実習・・・榎町児童センター、大久保児童館

(8) 使用した教材・リソース

すべて講師によるレジュメ

- ・ 子どもたちへの日本語教育の現状と課題—国内の学校現場における「異文化背景を持つ子どもたち」の現在
- ・ 日本語の学び方・考え方—初期段階の子どもたちへの日本語指導を中心に
- ・ 外国につながるのある子どもたちに対する「日本語指導者養成講座」—退職教員とし

- て学習支援活動の体験から
- ・ 日本語教育をはじめのために
 - ・ 日本語国際学級の今と課題
 - ・ 外国人生徒学習支援ボランティアの活動について
 - ・ すみだ国際学習センター(国際学習支援教室)について
 - ・ 外国につながるのがある生徒の高校進学状況

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
1月25日(日) 13:00～ 17:00	オリエンテーション 外国につながるの ある児童生徒を取り巻 く状況の概論(総論)	NP0 法人みんなののうち 理事 小林普子 東京学芸大学 准教授 齋藤ひろみ	13名
2月1日(日) 10:00～ 16:00	退職教員としての外 国につながるの ある児童生徒の支援活 動経験 外国につながるの ある児童生徒の学校で の支援状況	元中学校教諭 田中克子 現新宿区立大久保小学校 教諭 善元幸夫	12名
2月8日(日) 10:00～ 16:00	退職教員としての外 国につながるの ある児童生徒の支援活 動経験 外国につながるの ある生徒の高校進学の 状況	外国人生徒学習の会 (FSC) 代表 藤田京子 NP0 法人多文化共生セン ター東京代表 王慧槿	12名
2月9日(月)～ 21日(土)	外国につながるの ある児童生徒支援現場 での実習	こどもクラブ新宿 梶村勝利 / 合崎博子/ 安藤句美子	総数:21名
2月22日(日) 13:00～ 16:00	実習の振り返り	NP0 法人みんなののうち 理事 小林普子	14名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

[講座への感想]

- ・講師の方のお話はどれも心に深く入ってきた。現実はとても難しい事というのも実感。
- ・オリエンテーションおよび5人の講師による講義の構成と内容は大変有意義なものであった。講師がそれぞれ実践しており外国人児童・生徒の実態が良くわかった。また高校進学において外国にルーツを持つ生徒のおかれている状況も初めて知り、看過できない問題意識をもった。とにかく、毎回新鮮であり、ありがとうございました。
- ・実際に学習支援活動されている方々の生々しい話が聞けて、大変勉強になった。今後もこうした講座があるとより多くの方々が集まってこられるのではないかと思う。支援の輪が広がっていくことを願っている。
- ・講師の方々、それぞれにお忙しい中、貴重な資料を提供していただきながら楽しく勉強できた。何にしても「知る」ということの大切さを痛感した。この講座がまた次へつなげていかれることを心から願っている。
- ・日頃日本語のみのボランティアしかやっていなかったので、教科支援とはどのようなものか興味をもって参加した。日本語というよりは教科支援の大切さを考えさせられた講座だった。
- ・ボランティアという初めての経験を今まで軽く考えていたが、講師の先生方のお話を聞き、何て難しい問題が多いのだろうと思った。大変貴重な体験(王先生)をお聞きした。
- ・講師の方々のお話は長い間の実践に基づく内容だった。子どもたちの置かれている厳しい現状には驚くばかりでした。大変有意義で充実した講座であった。
- ・外国籍の児童生徒の置かれている現状に厳しさ(日本語。特に受験)を種々の講義で知り、大変勉強になると共にどのように私が協力できるかを考えさせられた。この講義に参加させていただき、とても良かった。今後も多くの人に参加できるようにこのような場(講義)を設けていただけたらと思った。
- ・私が住む新宿では外国人登録が住民の10%を超えたことで起きている様々な教育の現状を、講師の方から様々な角度・体験に基づいた現場での貴重なお話をいただき、わずかながらも現状は少し把握できた気がする。初めてのことで何も知らない世界でしたから、在日の置かれている状況を知ることで、子どもたちが置かれている深刻な現状を知りました。日本での生活に慣れ、少しずつ日本語が喋れるようになっていく子どもたちと、なかなか新しい世界になじめない親との関係から親子のコミュニケーションがうまくいなくなること、親子でしか実現できない微妙な感情の交流が薄れてゆくこと、習得する日本語の量の決定的な違いから結果的に脱落していく子どもたち。一方で難関を乗り越え前へ前へ進もうとする子どもたちとその努力には、行政のさらなる理解が必要と感じながらも私たちがさしのべる支援の重要さも感じた。

[実習の感想]

- ・講師の数も多く、子どもたちが熱心に学習している姿に心打たれた。小学生もしっかりした文

字を書いているのに驚いた。言葉の壁はありながらも理解力はなかなかと思った。私も支援者の1人としてお役に立てたらと思う。

・中学三年生の学習内容は、この年齢の私にとってはすっかり忘れてしまった(数学などは特に)内容のため、子どもたちに教えるということは難しいかもしれないが、子どもたちの目標に向かって一緒に学んでいければ良いかなと思う。私の住む地域に広げていきたいという思いと少しでも早く取り掛かって役に立ちたい。

・実習をとおして現場の現実は大変な問題をかかえているということを実感した。ただ今、旧教師に対し何を期待しているのかがわからない。特に今回元中学社会科教師に対し受験のテクニックなのか、何なのかわからない。

・どの子どもたちも熱心に学習している姿に感動した。

・来日4ヶ月で、中学1年生の授業はついていけるのか心配。ただ明朗で同じ中国出身の子どもたちと楽しく母語で話している点はホッとした。早く日本語を習得して教科の学習につなげ高校受験へもっていかれたらいいと思った。自分のことを話したいのにうまく表現できず苦慮しているようだった。

・学校を終え、夜の時間帯に通ってきて一生懸命学ぼうとしている子どもたちに率直に“偉いなあ”と感じた。教室によってカラーが違い、学ぼうとしてきている子と息抜き？に来ている子がいるようだが、それもまた彼らには必要なことなのかなあと思いながら見学した。先生方のご尽力、多大なものだと思った。

・大久保児童館では夜間にもかかわらず指導者と児童生徒が熱心に学習に取り組んでいたのも、感激した。しかし、日本語のままならぬ中での社会や理科等の学習、特に受験勉強の難しさを改めて考えさせられた。また、自分がどのように協力できるかを考えながら、いろいろな児童生徒の学習を少しずつ見せていただいた。次に参加した榎町児童センター。しかし、明るく感じの良い施設で女の子や小学生が多く、にぎやかな中にも学習に真摯に取り組む児童生徒が多いようだった。ここでは、主に小学校4年生と漢字と算数を一緒に勉強した。また、合間に他の生徒や児童がどのような学習をしているかを見せていただいた。たった二つの児童館だけでしたが、参加させていただきとても有意義であった。児童を支援していらっしゃる方々のご苦労や喜び、また、勉強している児童生徒の分かる喜びを感じることができ、とても有意義だった。そして、この仕事の大事さや必要性等を考えた時、出来る範囲で協力させていただきたいと思った(しかし、中学生の学習、特に数学は私自身に復習が必要だと痛感した)。

・現場を見る。初日は榎町、二日目は大久保の児童センター。三々五々に集まってくる子どもたちと、淡々と勉強を見るボランティアの皆さん。さまざまなボランティアのみなさんの姿に驚く。高校生、大学生、勤め帰りのサラリーマンやOL、ご近所のリタイアのご老人。生徒とボランティアに割り込む形で参加させていただく。子どもたちは1時間が集中の限度のようだ。叱咤激励しながら2時間が終わる。なるほどー。聞くより慣れる・・・だ。国語、社会ならば何とかなるかもしれないが・・・と思いながら実習を終えた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

対象が退職教員と絞られていたため、募集開始しばらくは応募がない状態であったが、関係団体や教育委員会の協力を得、また広報紙やホームページへの掲載により参加者を募ることができた。

講座の評価については、評価できた点、反省すべき点の2項目に分けて述べる。

1 評価できた点

- ・今回、退職教員による幅広い支援を期待し、退職者のための講座を開催した。このような講座は初めての試みで試行錯誤の部分もあったが、とても意義のある講座であった。
- ・受講者が休まず参加してくれた。これは講座の内容を評価してくれたのだと思う。
- ・日本語指導のノウハウは十分伝えられなかったが、講座を組み立てた意図を理解し、できれば支援活動に参加したい希望を伝えてくれた。
- ・実習で支援現場を見たり、支援を経験したことがボランティア活動を希望する動機付けになった。また支援現場では誰もが感動を持ってくれた。結果、座学だけではなく実学を設定したことがよかった。
- ・現場を持っている講師からの講義であったため、心にひびく内容となった。
- ・実際教員として子どもたちと関わったというベースのある上で、今回の講座を受けたことは大変意義のあること。今後もこのような形で開催していきたい。

2 反省すべき点

- ・講座のタイトルには「日本語教授法」となっていたが、「日本語教授法」とは少しはなれた内容になってしまった。
- ・実習期間が高校受験を控えた日程になってしまったため、学習支援の目的を高校受験だけを目的にした支援と感じた参加者もいたため、実習時期が最適でなかった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

財団としても支援者を増やし、子ども達の支援を積極的にしていきたいと考えるため、今後も今回のような講座を実施し、退職教員のネットワークを構築していきたい。

また、次のようなことも財団の役割として実施していきたい。

【親子日本語教室】

親と子がいっしょに参加できる「親子日本語教室」を大久保小学校で実施し、外国人の親子が日本語や学校生活、日本の文化について学ぶ場を提供するとともに、他の参加者やボランティアと交流する「居場所」とする。

【通訳・翻訳サービス】

当財団に登録している通訳・翻訳ボランティアを活用して、学校便りや、学校から保護者への連絡文書などを多言語に翻訳する。保護者会、三者面談などでも必要に応じてボランティアを派遣する。

【外国系の子どもたち支援活動に関わるボランティア養成】

外国人ならびに日本人のボランティアを養成し、直接、子どもたち支援のボランティア活動に関わる人を増やしていく。

【教員向け研修プログラムの提案】

外国系の子どもたちを受け入れる現場にいる教員を対象にした研修プログラムを教育委員会に提案する。

【外国人相談窓口】

区役所本庁舎としんじゅく多文化共生プラザに常設している「外国人相談窓口」で、子どもたちの保護者や子どもたち自身に関する相談を受ける。

【ネットワークづくり】

区内で外国系の子どもたち支援の活動をしているさまざまな団体やボランティアに呼びかけ、新宿区教育委員会を中心としてそれぞれの提供できる活動をまとめ、全体で動くしくみをつくるなど、具体的なコーディネートを行う。

【適応指導(初期)の内容の提案】

適応指導の(初期指導の)カリキュラムの提案を日本語の専門家や学校と意見交換しながら提案する。

【日本語学習コーナー】

しんじゅく多文化共生プラザ内日本語学習コーナーの活用(日本語に関する書籍・情報提供)

【教育関係組織への支援】

以下の点を提案し、協力・支援していく。

- ・転入学してくる外国系の子どもたちがスムーズに学校生活に溶け込めるしくみづくり。(コーディネーターの配置)
- ・外国系の子どもたちの保護者、教員への十分な情報提供(日本語が十分理解できない保護者への支援、外国系の子どもに対応するための教員研修)
- ・外国系の子どもたちを対象とした、高校進学のための進路指導

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

「Ⅰ 日系人等を活用した日本語教室の設置運営」に申請しており、この今回の研修参加者がそこで講師補助(講師は外国語を母語とする人のため)となって日本語を教えることを予定していたが、「Ⅰ 日系人等を活用した日本語教室の設置運営」には「Ⅱ 日本

語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成」参加者が引き続き参加したため、今回の参加者が講師補助となることはなかった。

② 研修後の人材活用

研修後、実習先にボランティアとして参加することを決めた人が数人。財団としては、平成21年度の事業として教育委員会との連携により児童生徒の放課後支援を予定しているため、その現場での活用を考えている。また、夜の子ども日本語教室の実施も予定しているため、こちらも活動の場として考えていきたい。

(12) 今後の課題

新宿区における外国人登録者数が3万3千人を超え、新宿区の総人口の約10.7%を占めている。外国人登録者数に増加に伴い、外国につながりをもつ子どもも増加している。と同時に子どもたちへの日本語学習支援は必要不可欠なものとなり、当財団も平成21年度の子ども支援事業に向け、準備をすすめている。主なものは児童生徒の放課後支援、そして夜の支援である。これらの実現は財団、新宿区の関係部署である文化観光国際課、教育委員会、関係団体、ボランティアの方々との連携によるものである。放課後支援に関しては、初めての試みであるため、試行錯誤の部分が多々あるが、子どもたちを取り巻く環境(保護者、学校、地域、ボランティア、関係機関、関係団体など)と連携してすすめていきたい。

また、子どもたちのことだけではなく、いかに保護者に日本の現状などを理解してもらうかも重要な課題である。保護者も巻き込むような支援の方法を考えていきたい。そして、子どもと間近で接していく教員向けの研修も教育委員会に提案するとともに、教員向けに十分な情報提供も必要である。

その他、児童生徒個々の情報が蓄積されることで、その後末永くその児童生徒の日本語に関する情報を把握できるようにし、連続的な支援につながるようしくみづくりをしていきたい。そして、児童生徒がいつでも安心して戻れる居場所づくりにつなげていきたい。